

と強調し、他の狂言にも及ぼすべきでさうすれば一部の觀者の難解といふ非難にも應へられるのである。文樂座の客の難解といふ言葉の底には、藝能觀實力の不足といふよりは筋さへわからないといふ不平が籠つてゐることが多い。

更らに、この古典の殿堂に國民娛樂的要素を加へるためには、劇映畫の前に短篇ニュース映畫の添えられるやうに時局下の新曲を加へることである。これは既に相當普通興行の間に試みられてはゐるが、今まであまりに間に合せの新曲のみであつた。獅子は兎を殺すにも全力を用ゐる。小曲たりともお茶漬では良心的ではない。いつも西亭氏の作詞作曲では問題にならない。小器用に節の都合のよい文章を書いて行く作詞で後世に残る作品が出る筈がない。そんな作品をこの時局は要求してもゐない。

「健全思想と淨瑠璃」本誌の重任

樋口虎之助

大阪の郷土藝術として天下に誇る淨瑠璃義大夫節が時代の潮流に合致せざるか年々衰頹の兆あるを嘆き其の風俗習慣を始め忠君愛國孝悌友信、日本國風の振興を謀り淨瑠璃義大夫節の進歩發展に努むる事明治三十二年一月以來大凡そ五十年間、然も何等貢獻する所なかりしは實に自の微力寧ろ無力を

新曲の場合は小曲と雖も文人の刻苦の一篇を相當の作曲者が全力を盡くして當るものでなければならぬ。それでも一作一作が後傳に傳はるとはいへない。近松とてその全作品が今に傳承上演されてゐる譯ではないが、作曲者上演者と相俟つて名作は不朽の光を放つてゐる。同時に多作したからとて傑作が出るとは言はれないから、一作者に偏せず一作曲者に限らず、廣く人材を求めて大東亞戰爭を契機とした一作品を後世に残す意氣を持つて當るのも必要な企劃の一面である。演技者の精進に就ては言ふ迄もない。各人が職域奉公、藝のために倒れるとも前線の將兵の生命力を自分の生命とし、研究に發表に懸命に働くつもりで勉強を重ねてこそ、特に興行存續を許された文樂座に働くものとして恵まれた立場にあるものゝ本分を果すことができるのである。

恥ぢざるを得ず、偶大東亞戰の勃發に遭遇し全國民の總力を要する國家の興廢浮沈に關する重大難關と認め斯道唯一の機關と自任するにも拘らず、國家の大事に殉じ潔く廢刊を届出たり、然るに或方面に於ては二三種の淨瑠璃宣傳の月刊物あり、昭和の聖代、國を賭したる大戰爭の眞最中、決戰態勢の頂點に於ては區々たる規則に拘泥せず、斷然一齊に緊肅すべきは論を俟たざる所なり、斯の重要時機にありては東京も大阪も臺灣も朝鮮も齊しく帝國皇民なり、此の古今未曾有の

重大なる戦時の人心を整頓鎮靜するに一層の緊要を認む。文化協會との聯絡並に實績上の調査には尙ほ數段の努力を希望して止まず、日本文化の進展を欲し大東亞建設の要諦に呼應せんとせば更に／＼奮勵敢闘せざるべからず、公明に考察し正大に處置し社會全般の進歩發達に適應して遺憾なきを得るが政治の妙諦、社會善導の急所は實に茲に有つて存するものならん乎。彼を思ひ是を思ふ折柄、恰も三月廿五日淨瑠璃雜誌は審議の結果「殘存誌」と決定せりととの通達に接し、微志天に通じたるものと感謝感激これを久しうす。又大阪學士會俱樂部が本誌五十年の苦闘に對し用紙を無償譲渡されし事は岡會長、江崎顧問、布井學士を始め其の他の諸氏が郷土藝術のために拂はれたる最大の犠牲と厚く感謝の意を表し其の筋の有難き激勵に應へ不敏乍ら彌々奮勵奉公の誠を盡くさざるべからず。切に各位の援助と鞭撻を請ふ。

昭和に語るべき新淨瑠璃

非常時の日本精神充實せる淨瑠璃、大東亞建設の新淨瑠璃、昭和
新文化の淨瑠璃、思想戰直應の淨瑠璃とは如何なるものたるを知ら
ず、徒に高唱放吟、聲量を誇示し腹力を自慢するが如きは恰も呼吸
して居ながら何を呼吸して居るかを知らざる者なり、空氣呼吸と教
ゆるも目に見えざれば空氣なるものなしと強辯する者と擇ぶ所なし
而して其の用意としては基礎、第一淨瑠璃創作（文化日本の尖端を
走るもの）。第二作曲（米英奥を交へず純日本の發音發聲）。第三人
形（辰松八郎兵衛式の進歩せるもの）これを以て大東亞文化新建設の
指導主日本帝國の國策翼賛の責務を盡せざれば昭和文化的の新日本
最高藝術家とは稱し難し。準備ありや成算ありや否。

淨瑠璃家令聞佳談

大・數・大・州・氏　は淨瑠璃協會へ千圓、軍用機資金に千圓を献納せり。

鴻・池・琴・城・氏　飛行機資金に千圓を献納せり。

模・範・工・場　宮崎宮路氏經營の鐵工所は各方面より模範工場と認められ、淨瑠璃技工と共に廣く賞揚さる。

豊・竹・古・靱・大・夫　櫓下祝賀の寄贈金千數百圓を總て軍資金に献納したるが決戦下淨瑠璃道のためには書籍も珍器も投げ出し單身藝を以て猪突殉國！流石に江戸ッ兒。

鶴・澤・勝・鳳・君　鶴澤勝鳳門下に於て特殊の意見を懷抱し永年斯道擁護に努めつゝありしが未曾有の國難に直面し心機一轉産業戰士となり。挺身日本出版配給會社に入り奮闘その餘裕を斯道振興に貢獻せんと熱闘中なり。

鶴・澤・小・勇・君　六代目鶴澤文藏を襲ぐべき名家に産れ斯道に奮勵しつゝありしが大東亞戰勳勃發以來産業戰士と轉身し住友鋼業所に勤め専ら増産に捧げ、夜は從來の如く斯道の鍊成に勵みつゝあり。